

# デーヴォ ガイド



**2024.11.25-12.1**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

3:14 また、ラオディキヤにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、確かで真実な証人、神による創造の源である方がこう言われる――。

3:15 わたしはあなたの行いを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

3:16 そのように、あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしは口からあなたを吐き出す。

3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっていない。

3:18 わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買い、あなたの裸の恥をあらわにしないために着る白い衣を買い、目が見えるようになるために目に塗る目薬を買いなさい。

3:19 わたしは愛する者をみな、叱ったり懲らしめたりする。だから熱心になって悔い改めなさい。

3:20 見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

3:21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。

3:22 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。』」

ラオディキヤの教会に対しては、何の褒めることばもありません。そのような教会とは、すなわち「なまぬるい」教会です。富んでいて、見えていて「乏しいものは何もない」と自負していても、その信仰は、神様が「吐き出し」たくなるようなものでした。

確かにこの世の価値観と妥協して、教会らしくないやり方をすれば、人も集まり収入も増えて、教会が富んでいるように見せかけることも可能かもしれません。しかし、主から吐き出されるようにして見捨てられてしまったら、教会はすぐにも衰退し「みじめで、哀れ」なものになってしまうのです。なまぬるさとは神なき価値観との妥協の産物です。

私たちがすべきことは（どの教会も同じ警告を受けていると思われませんが）、金のように不変の価値観を得ることです。また裸の恥を現さないために主の十字架のきよめを着ることです。そして何が主のみこころかをしっかりと見るのできる、目薬である聖書と聖霊に従うことです。

もしも主から「しかったり、懲らしめたり」というような試練を受けたなら、それは主の「愛する者」だいう証拠です。なまぬるい状態から離れて「熱心に」悔い改め、すなわち方向転換をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 26日 火曜

### 黙示録



4:1 その後、私は見た。すると見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラツパのような音で私に語りかけるのが聞こえた、あの最初の声と言った。「ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。」

4:2 たちまち私は御霊に捕らえられた。すると見よ。天に御座があり、その御座に着いている方がおられた。

4:3 その方は碧玉や赤めのうのように見え、御座の周りには、エメラルドのように見える虹があった。

4:4 また、御座の周りには二十四の座があった。これらの座には、白い衣をまとい、頭に金の冠をかぶった二十四人の長老たちが座っていた。

4:5 御座からは稲妻がひらめき、声と雷鳴がとどろいていた。御座の前では、火のついた七つのともしが燃えていた。神の七つの御霊である。

4:6 御座の前は、水晶に似た、ガラスの海のようにであった。そして、御座のあたり、御座の周りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。

4:7 第一の生き物は獅子のようであり、第二の生き物は雄牛のようであり、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は飛んでいる鷲のようであった。

4:8 この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その周りと内側は目で満ちていた。そして、昼も夜も休みなく言い続けていた。「聖なる、聖なる、聖なる、主なる神、全能者。昔おられ、今もおられ、やがて来られる方。」

4:9 また、これらの生き物が栄光と誉れと感謝を、御座に着いて世々限りなく生きておられる方にささげるとき、

4:10 二十四人の長老たちは、御座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝した。また、自分たちの冠を御座の前に投げ出して言った。

4:11 「主よ、私たちの神よ。あなたこそ栄光と誉れと力を受けるにふさわしい方。あなたが万物を創造されました。みこころのゆえに、それらは存在し、また創造されたのです。」

ヨハネが見たのは幻であって現実ではありません。しかしそれは神からの啓示であって、確実に「この後必ず起こること」なのです。ヨハネは幻を文章で表し、私たちはその文章から想像するのですから、視覚的に完全に再現できるわけではありません。しかし啓示である以上、聖霊によって霊的には十分に再現できるのです。私たちは視覚的な再現よりも、信仰的な意味を受け止める必要があります。

ここで明確に分るのは、この世で起きることは天で起きることと連動しているということです。天には主の御座があり、その永遠の権威が地を動かすのです。24人というのは、旧約のイスラエル12部族と、イエス様の弟子の12人に代表される新約のクリスチャンであり、全ての時代の信仰者の代表と考えられます。信仰者は金の冠を被るほどに栄光が与えられるのです。

またその天は地上のものとは全く比べることができないほどに、栄光に満ちてることが、水晶やガラスの海という表現でわかります。私たちが日常で主の偉大さを感じられなくとも、主は驚くべきお方なのです。

この四つの生き物は「聖なる…」と主をほめたてていますが、ししの勇氣と力、雄牛の忍耐と

勞力、人間の徳と愛、わしの高邁な精神を持っていることに心を留めるべきです。主の栄光を表すとは、それらのような生き方によるのです。現在の私たち信仰者の生き方が主の栄光を表すことを覚えて励みとしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 27日 水曜

### 黙示録



5:1 また私は、御座に着いておられる方の右の手に巻物を見た。それは内側にも外側にも字が書かれていて、七つの封印で封じられていた。

5:2 また私は、一人の強い御使いが「巻物を開き、封印を解くのにふさわしい者はだれか」と大声で告げているのを見た。

5:3 しかし、天でも地でも地の下でも、だれ一人その巻物を開くことのできる者、見ることのできる者はいなかった。

5:4 私は激しく泣いた。その巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見つからなかったからである。

5:5 すると、長老の一人が私に言った。「泣いてはいけません。ご覧なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利したので、彼がその巻物を開き、七つの封印を解くことができます。」

5:6 また私は、御座と四つの生き物の真ん中、長老たちの真ん中に、屠られた姿で子羊が立っているのを見た。それは七つの角と七つの目を持っていた。その目は、全地に遣わされた神の七つの御霊であった。

5:7 子羊は来て、御座に着いておられる方の右の手から巻物を受け取った。

「巻物を開き、封印を解く」とは、借金を肩代わりしてくれた人が、負債の証書を開いて手続きをすることを意味します。「巻物を開く者がいなかった」ということは、誰も負債を肩代わりする者がいないということで、つまり私たちの罪の負債を負ってくれる人がいないということです。「私は激しく泣いた。」とあります。それくらい罪の赦しに関して敏感に感じられるようでありたいものです。

「ダビデの根」とはダビデの家系から生まれたイエス様です。この小羊イエス様が巻き物を受け取ったのです。なんと感謝なことでしょうか。罪の負債が赦されたことへの感謝と感動を忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:8 巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老たちは子羊の前にひれ伏した。彼らはそれぞれ、堅琴と、香に満ちた金の鉢を持っていた。香は聖徒たちの祈りであった。

5:9 彼らは新しい歌を歌った。「あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、

5:10 私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。」

5:11 また私は見た。そして御座と生き物と長老たちの周りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。

5:12 彼らは大声で言った。「屠られた子羊は、力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい方です。」

5:13 また私は、天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものがこう言うのを聞いた。「御座に着いておられる方と子羊に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように。」

5:14 すると、四つの生き物は「アーメン」と言い、長老たちはひれ伏して礼拝した。

天での賛美や礼拝は完全なものと言えます。その礼拝の中で聖徒の祈りは香であるとあります。このことから聖徒たちの祈りは神様を完全にほめたたえることのできるすばらしいものであると分かります。このように私たちの祈りは決して無駄ではなく、主を讃えるものであると知りましょう。祈りを躊躇す

ることはありません。祈りが応えられるだろうかと危惧する必要はありません。祈りましょう。

また御使いたちの賛美がささげられています。私たちが地上ささげる賛美も、御使いたちと共にささげられるのですから、そのダイナミックさを感じながら賛美しましょう。天と地上は、神様の權威によってつながっているのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





6:1 また私は、子羊が七つの封印の一つを解くのを見た。そして、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい」と言うのを聞いた。

6:2 私は見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得るために出て行った。

6:3 子羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が「来なさい」と言うのを聞いた。

6:4 すると別の、火のように赤い馬が出て来た。それに乗っている者は、地から平和を奪い取ることが許された。人々が互いに殺し合うようになるためである。また、彼に大きな剣が与えられた。

6:5 子羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が「来なさい」と言うのを聞いた。私は見た。すると見よ、黒い馬がいた。これに乗っている者は秤を手を持っていた。

6:6 私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の真ん中でこう言うのを聞いた。「小麦一コイニクスが一デナリ。大麦三コイニクスが一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に書を与えてはいけない。」

6:7 子羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が「来なさい」と言うのを聞いた。

6:8 私は見た。すると見よ、青ざめた馬がいた。これに乗っている者の名は「死」で、よみがそれに従っていた。彼らに、地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。

いよいよ封印が解かれて、これから終末に起こることが明かにされます。19章では白い馬に乗った方は血に染まった「神のこぼし」でありますから、これは十字架に死なれた神のロゴスであられるイエス様のことです。勝利は十字架のイエス様にあります。すなわち福音宣教の勝利であって、患難が起こる前に救いのみわざが確実にあることがわかります。この救いに与れたことを感謝しましょう。

また「赤い馬」は戦争、「黒い馬」はききんを表しますから、終末にはそのような苦難が起こることは知っておく必要があります。また第四の「青ざめた馬」も大きな苦難や天変地異があることを表します。私たちはこのような問題の中にも揺るがないしっかりとした信仰を持つ必要があります。今も試練の中に置かれている兄弟姉妹は、今がそのときのための尊い訓練であって、自分の信仰が精練されていることを知って、主の愛に感謝しましょう。

誰もいいかげんな信仰のままでは、この終末の苦難に勝てないことを知って、主の力に頼る訓練をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 30日 土曜

### 黙示録

6:9 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

6:10 彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさらないのですか。」

6:11 すると、彼ら一人ひとりに白い衣が与えられた。そして、彼らのしもべ仲間、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

6:12 また私は見た。子羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。太陽は毛織りの粗布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。

6:13 そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが大風に揺さぶられて、青い実を落とすようであった。

6:14 天は、巻物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山と島は、かつてあった場所から移された。

6:15 地の王たち、高官たち、千人隊長たち、金持ちたち、力ある者たち、すべての奴隷と自由人が、洞穴と山の岩間に身を隠した。

6:16 そして、山々や岩に向かって言った。

「私たちの上に崩れ落ちて、御座に置いておられる方の御顔と、子羊の御怒りから私たちを隠してくれ。」

6:17 神と子羊の御怒りの、大いなる日が来たからだ。だれがそれに耐えられよう。」



第五の封印が解かれて、殉教者のことが明らかされます。信仰のゆえに殺された人々は、死んで終わりではなく、主に覚えられています。主のために苦しむことは決して無駄なことではありません。むしろ信仰者を苦しめる者の迫害こそが無駄であり、彼らはその行いゆえに報いを受けなければならないのです。

第六の封印が解かれると、恐ろしい天変地異が起こります。主に敵対する人々はあまりの苦しみのゆえに死を願い、山や岩に「崩れ落ちて…隠してくれ」と願います。それほどに「小羊の怒り」が恐ろしいものだということです。

人のためにご自身を無にして十字架の死にまで従った方は、単に弱くて殺されたものではありません。実はこのように恐ろしいほどの力と権威とを持ったお方なのです。そのようなさばき主が、私たちのために死んでくださったということは、驚くべきことです。主イエスの謙遜の大きさを覚えましょう。新たに感謝しましょう。そして主に愛されて守られていること、世の終わりにあっても守られることに感謝しましょう。主に赦されている者としてふさわしい歩みをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:1 その後、私は四人の御使いを見た。彼らは地の四隅に立ち、地の四方の風をしっかりと押さえて、地にも海にもどんな木にも吹きつけないようにしていた。

7:2 また私は、もう一人の御使いが、日の昇る方から、生ける神の印を持って上って来るのを見た。彼は、地にも海にも害を加えることを許された四人の御使いたちに、大声で叫んだ。

7:3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を加えてはいけない。」

7:4 私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

7:5 ユダ族から一万二千人が印を押され、ルベン族から一万二千人、ガド族から一万二千人、

7:6 アシェル族から一万二千人、ナフタリ族から一万二千人、マナセ族から一万二千人、

7:7 シメオン族から一万二千人、レビ族から一万二千人、イッサカル族から一万二千人、

7:8 ゼブルン族から一万二千人、ヨセフ族から一万二千人、ベニヤミン族から一万二千人が印を押されていた。

ここには第六の封印と第七の封印の間の出来事が記されます。第七の封印が解かれると、その後7つのラッパが用意されていて、それぞれにまた大いなる串難が起こりますが、その前に主への信仰を守り通した者たちが守られることが、ここに明確にされています。

まずは旧約の信仰者を現すイスラエルの民です。12の部族からそれぞれ一万二千人ですが、これは

完全の上にも完全が表されていると考えられるでしょう。ヨハネが人数を数えることは不可能です。

神様の救いは、旧約も新約においても変わらないことを表します。神様は時代が変わっても永遠に変わらないお方なのです。その神様によって救いをいただいている私たちですから、時代が変わっても安心して信仰を持ち続けましょう。もちろん私たち個人の立場や状況が変わっても一緒です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

